

施設・設備および環境

解剖センター

本学の解剖センターは、一般に強調される大学や関係機関の教育・研究への貢献以上に、解剖を通じて地域社会に貢献することを重視してきた。

これまで20年余りかけて献体を通して築かれてきた地域と大学との間の信頼関係の基盤の上に、今後は卒後教育も含めた本学独自のシステムに育って行くことが期待される。

**系統解剖** 人体構造の理解の場としてだけでなく学生の「心の教育」の場として活用。

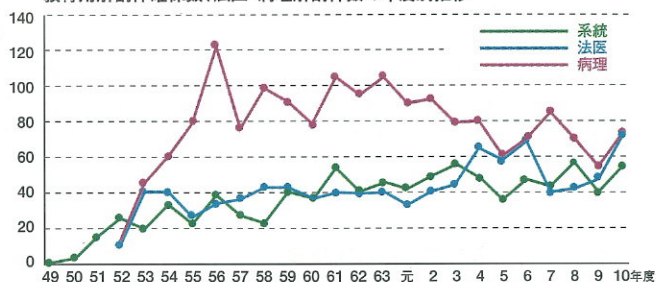
**法医学解剖** 司法・行政から求められる医学情報を提供することによって地域社会の保全に貢献すること。

**病理解剖** 治療の結果などを臨床側へフィードバックすることによって診療の精度管理を行う。

● 感染対策と環境対策

未固定組織を扱う解剖室（法医および病理）や系統解剖の遺体処理室の感染対策が遅れている。解剖従事者および外部に対する危険防止策を講じることは急務である。

教育用解剖体確保数、法医・病理解剖件数の年度別推移



実験実習機器センター

実験実習機器センターは、医学の教育・研究に必要な設備や機器を総合的に管理することにより、共同研究の効率化を図り、本学の医学教育及び研究の向上・発展に資することを目的として、1982年に設置された文部省令に基づく施設である。

- 透明性の高い運営と利用者の要求に基づく教育研究機器の導入を図っている。
- 設置機器が有効に利用されるように、利用方法等の広報活動を行っている。
- 本学の研究活性化のために、講演会・講習会を定期的に開催している。



- コンピュータ関係の一部の部屋を除き、24時間オープンしている。機器の利用は年々増加し、16大学のセンター中、トップクラスの利用となっている。

動物実験施設

動物実験施設は、学内の動物をすべて集中して飼育・管理することにより動物実験の再現性、安全性を高めることに加え、最近では発生工学的方法も駆使して実験動物の系統の維持・開発を進め、より積極的な研究支援を行ってきた。

- 施設の規模は全国の42の国立大学動物実験施設の中で最も小さい(2,400㎡)が運用面で工夫を重ね、同規模の他大学に比べて高い飼育収容数を達成している。
- 各講座、研究室への小型げっ歯類の搬出と実験処置後の再搬入を許可している。
- 動物福祉にきめ細かな配慮をしている。



## 大学附属病院

### 利便性

病院は50km圏内に県の全地域をおさめ、県外では奈良、大阪府をもふくむ。鉄道、高速道路による交通の接点に近く、自然と連絡手段にめぐまれており、市街地内にない利点と考えられる。多くの患者さんは自動車による受診となるが、対する駐車場はほぼ十分なスペースが確保されている。

### 患者への配慮

平面的な広さ故に、構造が単純で分かり易い。一方患者さんの移動時の配慮として様々な休憩用のイスが用意されている。障害者の方に

対する設備が充実して来ており、特に自動トイレは各階に設置されている。

### 地域との連携

地域医療との連携として総合診療部が外来ゾーンに設けられ、救急部、集中治療部を統括し、救急患者の診療に成果を挙げている。また治療中、治療後の患者さんに対する継続看護も展開している。

### ボランティア

活動用の部屋が設けられ、外来患者さんの案内や病棟での活動が行なわれている。

### 病院設備

病棟、外来、検査室を繋いだシステムにより、ほぼ全てのオーダーが自動化され、患者さんの待ち時間短縮と情報提供等のサービス向上に寄与している。

機器の設置も満足出来るレベルにあると考えられる。特にMRI関連の充実は次に紹介するIntraoperative MRIの導入により、さらに進む。

### 治療支援MRシステムの設置

現在世界に11機しかなく、日本で初めての核磁気共鳴画像下での治療を目的としたIntraoperative MRI (ioMR)が、平成12年初頭から試運転開始となる。本機はGE社が開発中のシステムで、術中に骨や空気に妨げられず、組織の物質変化や流体を画像として捉えられるMR画像の長所に加え、被曝の心配なしに、リアルタイムに生体の深部が画像として見られる様に設計されている。

今回設置される機種はGE社製、0.5TのSIGNA SPと呼ばれ、ドーナツを2個並べた様な形をして、輪の中で横になった患者さんにドーナツ様の装置間から外科的な操作が行なえる。



当院に設置されたSIGNA SP

#### このシステムの可能性は

- 1.被曝の心配がない。
- 2.画像ガイド下に手術、治療操作が可能
- 3.動体の画像認識が可能
- 4.温度や組織変性が画像として検出可能

社会的に低侵襲治療が求められている中、ioMRはその期待に十分応える能力を持ち、日本で最初に稼働を開始する当院は、次世代の侵襲治療や検査のありかたを模索し、提案し、構築する必要がある。

### 大学病院衛星医療情報ネットワーク (MINCS-UH) の開局

MINCS-UH (Medical Information Network by Communications Satellite for University Hospital) が平成11年11月に開局され、大学間での受講が開始された。MINCS-UHは平成8年に始まった通信衛星スーパーバードを使った大学病院間、地域医療施設間を結ぶ衛星通信網であり、高解像度のデジタルハイビジョン動画映像と通常のテレビ信号が使用出来る。また、ホストコンピュータを介して、双方向通信も可能なため、互いに質問や討論、そのやり取りを第三者が見る事も可能である。現在までに本学を入れて30の国立大学医学部附属病院に設置されている。



MINCSのパラボラアンテナ

#### 大学・大学病院間

先進医療(手術、診断、治療)の発信、討論、受講合同(複数の病院)の臨床カンファレンス

#### 地域医療施設間

地域医療施設へ最新医療情報の提供、災害時の医療情報提供、情報支援

#### 大学内

病院スタッフの技術研修及び情報システムとの連携

上記の情報交換が可能と考えられ、全社会的に、迅速な情報の共有を進める上で大きな期待がよせられている。

アクセス先: (inubushi@belle.shiga-med.ac.jp)

本学MINCSホームページ : <http://www.shiga-med.ac.jp/hqmincs/>